令和２年度

Zoom オンライン授業実践事例集

グアナファト日本人学校

グアナファト日本人学校　Zoom オンライン授業実践事例

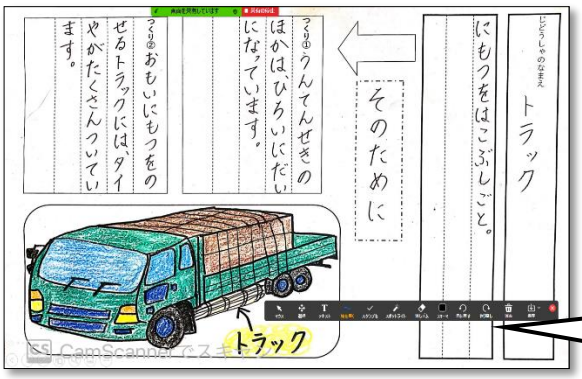
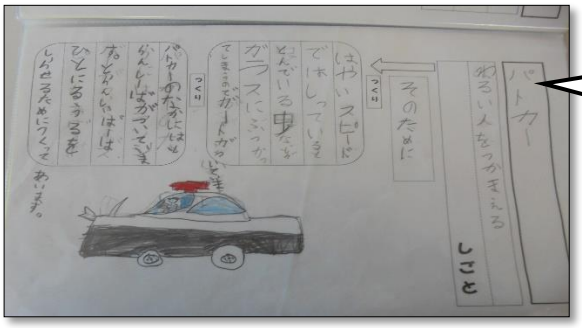
指導者：張本　美波

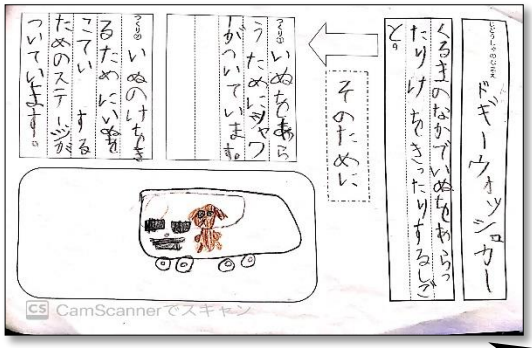
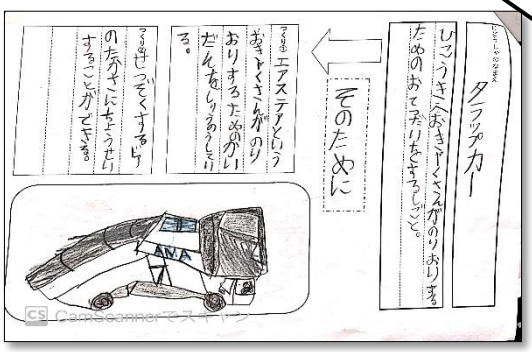
学年	小学部　　1　年	教科	国語
単元名	じどう車ずかんをつくろう		
活用する ICT	Zoom、画面共有用スライド（power point）		

本時の目標

○　調べたことをもとに、「しごと」と「つくり」の順で「じどう車しょうかいカード」をまとめることができる。

本時の展開

過程	学習活動	指導の工夫
導入	○前時までの学習について、ワークシートを見ながら振り返る。  	・画面共有をし、今までの活動を振り返ることで、「しごと」「つくり」を調べたことそして、「しごと」と「つくり」を繋げる「そのために」という言葉を使って説明したことを思い出させるようにする。 **画面共有をして、今までの活動を思い出す。**
展開	○本時のめあてを確認する。 **じどう車しょうかいカードをまとめよう。** ○前時までの学習をもとに、「じどう車しょうかいカード」を書く。  ○書き終わった児童同士で、間違いがないか確認をする。	・みんなで１つの図鑑を作り、学校に掲示することを伝えることで、意欲を持って取り組むことができたり、丁寧に書くことを意識させたりする。 **画面共有をして、他校の児童の作品を参考にしながら書いていく。** ・早く完成させることができた児童には、2 枚目に取り組ませる。 ・まだ書き終わっていな児童が集中できるように、完成できた児童はブレークアウトルームを作り、間違いがない

		か確認し合えるようにする。 **ブレークアウトルームを作り、友達にアドバイスをしたり、間違いがないか確認し合ったりする。**
終末	○本時の学習を振り返る。 ○次時への見通しをもつ。   	・「しごと」と「つくり」の順番で書くことができたか振り返させる。 ・次時は、友達の「じどう車しょうかいカード」を見て、良い所を見つける活動を行うということを伝える。 **次時は、画面共有をして友達の「じどう車しょうかいカード」の良い所を見つける。**

成果と課題

○ZOOM 画面に全員の顔が映っているため、表情を見て困っている児童に気付きやすい。

○対面授業と比べると、ZOOM 授業では言葉だけの説明では伝わりにくい。なので、イラストや写真を使いながら説明したり、画面に言葉を入力して伝えたりと、伝え方を一工夫することで、子供達の理解にも繋がった。

○画面共有、ブレークアウトルーム、レコーディング、チャットなど ZOOM の様々な機能を時と場合に応じて使い分けながら活用することで、深まりのある授業を展開することができるようになった。

△手元が見えないため、ノートのとり方を把握できなかったり、ミスに気付くのが遅れてしまったりする。

△wifi が切れてしまったり、インターネットが不安定になることが頻繁にあり、子供の集中力に影響を及ぼしている。週 3 くらいで起こる。

△通常授業だったら、困り感を感じている児童に対しすぐ手を差し伸べてあげられるが、ZOOM 授業だと困り感を感じている児童への丁寧な指導が難しい。

通常授業（平常時）と比べてどれだけ平常時に近づいた授業が実践できたか

○画面共有機能を使うことで、通常授業で使う黒板と同じ役割を担うことができた

グアナファト日本人学校　Zoom オンライン授業実践事例

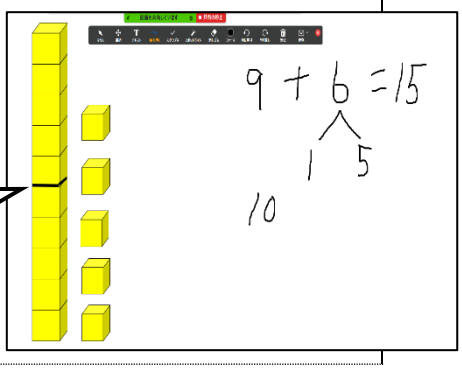
指導者：張本　美波

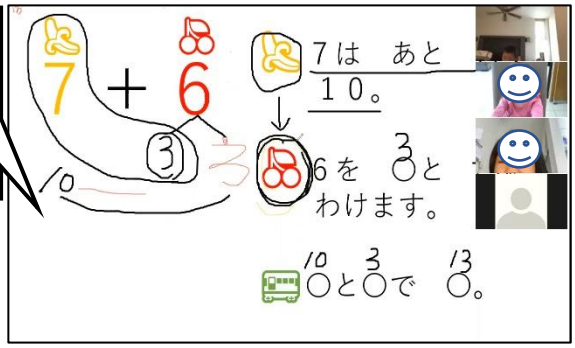
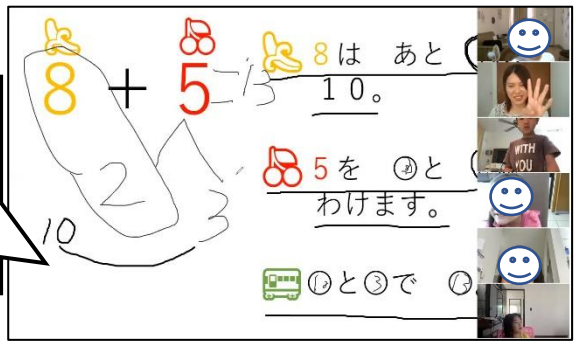
学年	小学部　　1　年	教科	算数
単元名	たしざん		
活用する ICT	Zoom、画面共有用スライド（power point）		

本時の目標

○　1位数どうしの繰り上がりのある加法計算で、加法を分解して計算する方法を理解することができる。

本時の展開

過程	学習活動	指導の工夫
導入	○問題場面を捉え、立式する。 ①アニメーションを見る。 ②アニメーションの動きに合わせてブロックを操作する。 ③問題を見て、分かっていること・尋ねていることに○をする。 ④どんな式になるのか考える。 **画面共有をし、○したところを一緒に確認する。**	・Power point で作成したアニメーションを見せてから、問題を提示することで、児童がよりイメージしやすくするようにする。 ・問題を、ZOOM の画面共有機能を使い児童と共有し、キーワードになる言葉に○をすることで、視覚的に捉えられるようにする。
展開	○本時のめあてを確認する。 **どうすればかんたんにけいさんできるのかな。** ○既習事項を振り返り、ヒントを探す。 ・ブロックを使って考えられそうだな。 ・さくらんぼ計算が使えそうだな。 **児童の手元が見えないため、発表の際に、児童の言葉に合わせて、教師が画面で操作したり、書き込んだりする。**	・既習事項について振り返る際に、画面共有をすることで、思い出すことができるようにする。 

	○発表をし、考えの似ているところを見つける。 ・１０のまとまりを作っているところが同じだね。 ○解決の過程で働かせた見方･考え方と計算をまとめる。 ①教師のお手本を見る。  ②自分で計算してみる。  	・発表の際に、児童の言葉に合わせて操作したり、書き込んだりすることで、さらに理解を深めることができるようにする。 ・操作をしながら説明することで、児童が計算の仕方の手順を理解できるようにする。 ・分ける→さくらんぼを作る。１０のまとまりを作る→１０バナナを作る。足す→線路でガッシャンなど最初は、児童がイメージしやすい言葉で説明する。 ・児童一人ずつ画面に、計算の仕方を書き込んでもらうことで、それぞれ児童がどれだけ理解できているかを把握する。 ・画面をレコーディングして記録に残しておくことで、既習事項を振り返る際に活用できるようにする。
終末	○本時のまとめをする。 **１０のまとまりをつくるとかんたんにけいさんできる。** ○適用問題に取り組む。	・適用問題に取り組むことで、本時で習ったことを整理することができるようにする。

画面共有をし、教師のお手本を見せる。

画面共有をし、児童に画面へ、計算の仕方を書いてもらう。

成果と課題

○ZOOM 画面に全員の顔が映っているため、表情を見て困っている児童に気付きやすい。

○対面授業と比べると、ZOOM 授業では言葉だけの説明では伝わりにくい。なので、イラストや写真を使いながら説明したり､画面に言葉を入力して伝えたりと､伝え方を一工夫することで、子供達の理解にも繋がった。

○画面共有、ブレークアウトルーム、レコーディング、チャットなど ZOOM の様々な機能を時と場合に応じて使い分けながら活用することで、深まりのある授業を展開することができるようになった。

△手元が見えないため、児童の計算の仕方を把握できなかったり、ミスに気付くのが遅れてしまったりする。
△wifi が切れてしまったり、インターネットが不安定になることが頻繁にあり、子供の集中力に影響を及ぼしている。週３くらいで起こる。
△通常授業だったら、困り感を感じている児童に対しすぐ手を差し伸べてあげられるが、ZOOM 授業だと困り感を感じている児童への丁寧な指導が難しい。

通常授業（平常時）と比べてどれだけ平常時に近づいた授業が実践できたか

〇画面共有機能を使うことで、通常授業で使う黒板と同じ役割を担うことができた。

グアナファト日本人学校　Zoom オンライン授業実践事例

指導者：望月　優生

学年	小学部　１・２年	教科	生活科
単元名	オンラインまちたんけんをしよう		
活用する ICT	Zoom（前時まで Power Point や Word の資料を共有して使用）		

本時の目標

〇自分たちの生活はコスモスファミリークリニック（日本人通訳常駐クリニック）や近くの病院と関わっていることが分かり、地域のよさに気付く。（知識・技能）

〇インタビューでその場に応じたやり取りができる。（思考力・判断力・表現力）

本時の展開（２時間続きの学習）

過程	学習活動	指導の工夫
導入	・本時のめあてや流れを確かめる。 コスモスファミリークリニックをたんけんしよう。	・前時までに決めた質問やセリフをまとめた原稿を、事前に配布しておく。
展開	・コスモスファミリークリニックの方に、Zoom に参加していただき、「オンラインまちたんけん」をする。 ①知りたいことをインタビュー形式で質問する。 ②端末を持って移動しながら、院内を案内していただく。 ③医師や通訳の方からのメッセージ	・児童が質問したいことをまとめて、コスモスファミリークリニックの方へメールで送付し、Zoom にて事前打ち合わせを行う。 ・Zoom の時間制限のため、途中一度学習を中断し、再度接続し直す。
終末	・本時の学習の振り返りをする。 ふりかえりプリントに記入→発表	・事前にふりかえりプリントを配布しておく。

成果と課題

・実地学習に比べると児童の驚きや感動はやや劣るが、Zoom を使うことで臨場感のある学習を行うことができた。多くの児童が、興味を持って学習に取り組めた。

・今回は学校が所在するイラプアト市内の医院であったが、遠方から通学している児童もおり、その児童らが住む街のお店や施設も、Zoom を使えばオンライン町探検が可能であることが分かった。実地学習の移動時間や費用を考えると、Zoom で行う方が良い場合もある。

通常授業（平常時）と比べてどれだけ平常時に近づいた授業が実践できたか

・Zoom を使うことで、平常時の町探検とほぼ同等の授業を行うことができた。

グアナファト日本人学校　Zoom オンライン授業実践事例

指導者：望月　優生

学年	小学部　　２年	教科	国語
単元名	お話のさくしゃになろう		
活用する ICT	Zoom,　iPad, 画面共有用スライド（Power Point で作成）		

本時の目標

〇お話に出てくる登場人物の名前や性格などを設定することができる。

本時の展開

過程	学習活動	指導の工夫
導入	・これまでに学習した物語の登場人物について振り返る。(「スイミー」、「ミリーのすてきなぼうし」、「お手紙」、「わたしはおねえさん」など)	・予め１年生の教科書や上の教科書も準備させて、児童が学習したことを思い出せるようにする。
展開	・本時のめあてを確かめる。 お話に出てくるじんぶつについて考えよう。 ・これまで学習した物語を参考にしながら、教科書やワークシートの絵を見て、描かれている登場人物の名前や、どんな人物なのかを、考える。 ・自分が考えた人物の名前やどんな人物かを、クラスで交流する。	・課題配布日を利用し、事前にワークシートを配布しておく。 ・iPad で事前作成したスライドを開き、Zoom で画面共有し、学習内容を視覚的に捉えやすくする。 ・共有したスライド画面上で、気をつけることを Apple Pencil で直接書き込み、児童が学習活動を理解しやすくする。
終末	・本時の学習を振り返り、次時の見通しを持つ。	

成果と課題

・教科書やワークシートを児童の端末画面に共有することで、児童が学習活動を理解できた。

・Apple Pencil で教師が共有画面に直接書き込むことで、学習の指示をより明確に出すことができた。

・児童が書いたものを教師がすぐに確認し、添削やアドバイスを行うことができないため、授業後に、メールで提出させ、添削を行った。

通常授業（平常時）と比べてどれだけ平常時に近づいた授業が実践できたか

・教師が共有した画面を、児童一人ひとりの端末で見ることができるので、指示や説明は通常授業よりも伝わりやすかった。全体的に通常授業に近い実践ができたが、児童がワークシートに書いたものがすぐに確認・添削ができない。授業内での双方向のやり取りは低学年には難しいと感じた。

グアナファト日本人学校　Zoom オンライン授業実践事例

指導者：拝藤　均

学年	小学部　３年	教科	算数
単元名	重さをはかって表そう		
活用する ICT	Zoom		

本時の目標

○１０００g をこえる重さをはかることができる

本時の展開

過程	学習活動	指導の工夫
導入	単位フラッシュカード	パワーポイントに単位の換算のカードを作りそれを声を出しながら答えさせる。
展開	１はかりの特徴をおさえる ・最小メモリは何ｇですか ・最大何キログラム図れますか ２　１kg について知る ３ランドセルの重さを調べる。 ４教科書のはかりに、 ア１kg５００g イ７００g ウ１kg８５０gを矢印でかく。	はかりのどこを見れば良いか最小メモリと何ｋｇまで測れるかを、ペンで記入しながら焦点化する。 パワーポイントではかりを大きく表示し、自分のＰＣやタブレットから矢印を書かせる。
終末	５適用題をする。	

成果と課題

・上皿天秤ばかりがなくても、メモリを正確に読むことができるようになった。

・実際に上皿天秤ばかりがないので実体験ができない。(家にあるのはデジタルのはかりであった)

・ＰＣ、タブレットの操作が上手になってきた。

通常授業（平常時）と比べてどれだけ平常時に近づいた授業が実践できたか

台ばかりの情報の読み取りにおいて、大切なところを焦点化するため、最小メモリや何キログラムまではかることができるかを意識して読み取っていた。

グアナファト日本人学校　Zoom オンライン授業実践事例

指導者：拝藤　　均

学年	小学部　３年	教科	総合的な学習
単元名	死者の日について		
活用する ICT	Zoom		

本時の目標

○　死者の日について、調べたことをわかりやすく発表する。

○　友だちの発表の良いところ、工夫していること、初めて知ったことなどをまとめる。

本時の展開

過程	学習活動	指導の工夫
展開	発表内容 1　死者の日ってなんだろう 2　死者の日は、いつどこで始まったか 3　死者の日の食べ物について 4　５種類のパン・デ・ムエルトス 5　パン・デ・ムエルトスの作り方 6　マリーゴールドの花について 7　死者の日について 8　なぜガイコツメイクをするのか 9　良いところ、工夫しているところ、初めて知ったことなどを発表する。	・発表会より前に、中間発表を行い、発表の仕方について相手を意識させて発表できるように練習を行う。 ・発表を聞きながら友達の良いところ、工夫しているところ・初めて知ったことなどをカードに書かせる。 ・パワーポイント、キーノートン、写真等を自分で共有できるようする。 ・

成果と課題

・児童は、相手にわかりやすく伝えるために、パワーポイントやキーノートンのアプリを使ったり、写真をうつしたり、画面に共有しながら発表することができた。

・どのように伝えたら相手にわかりやすいか考えて、模造紙の説明のポイントを焦点化させたりや実物を提示したりして発表することができた。

・写真や記事をインターネットから使う方法についてさらに学ぶ必要がある。

通常授業（平常時）と比べてどれだけ平常時に近づいた授業が実践できたか

・様々な方法で発表することができ、発表を焦点化しながらすることができるので、わかりやすく発表できた。

グアナファト日本人学校　Zoom オンライン授業実践事例

指導者：龍口　茂

学年	小学部　4　年	教科	図画工作
単元名	絵の具でゆめもよう		
活用する ICT	Zoom・ipad		

本時の目標

〇絵の具でいろいろな描き方をためしてつくった紙で表すことができる。

本時の展開

過程	学習活動	指導の工夫
導入	作品例を見て，製作への思いを膨らませる。 絵の具でいろいろためすことを楽しもう	・ipad を使用し多くの作品を見せ，興味を持たせる。
展開	・本時の目当てを捉える。 ・身近な材料や用具の使い方を工夫して，いろいろな方法で紙に模様をつける。 ・すてきな模様のよさや美しさを感じ取り発想を膨らませる。	・ipad で作成手順を見せたり，教師手本を提示したりすることで確認する。 ・zoom で学習内容を共有する。 ・児童一人ひとりの考えをコメントカードにして zoom で視覚化させる。
終末	・作品カードを書き，お互いの良さを話し合う。	

成果と課題

・教科書や指導者の手本を ipad や zoom に共有させることで，児童一人ひとりのめあてを確認することができた。

・児童の製作過程を同時に確認することが可能となる。

・児童同士もお互いの作成過程を確認しやすくなった。

通常授業（平常時）と比べてどれだけ平常時に近づいた授業が実践できたか

・共有画面にて，児童一人ひとりの機器で確認することで，平常時に近い指導ができるが，技能教科という特性上，作成方法・表現方法等できめ細かい指導には限度がある。

グアナファト日本人学校　Zoom オンライン授業実践事例

指導者：大橋　望

学年	小学部 4 年	教科	道徳
教材名	いのちをつなぐ岬		
活用する ICT	Zoom、Powerpoint		

本時の目標

〇ウミガメの産卵写真や保護に取り組む人々の思いを通して、自然を守るために大切なことについて考え、自然やそこに生きる動植物を大切にし、環境保全について関心をもつ。

本時の展開

過程	学習活動	指導の工夫
導入	海亀が出産している映像を視聴する 今日の課題を知る	
展開	教材を読み、話を通して自然を守ることについて話し合いをする	児童の発言は zoom の書き込みツールを使用して記入していく 海亀などの写真を提示しながら考えさせる
終末	ふり返りを書く	

成果と課題

・パワーポイントのスライド内に動画を貼り付けることで、思考を止めることなくスムーズに進めることができた

・黒板のように 1 枚のスライドで全てを見せたり書いたりすることができないので、構造的な板書にできない

通常授業（平常時）と比べてどれだけ平常時に近づいた授業が実践できたか

・ねらいとする道徳的価値につながる発言や記述も見られ、議論も活発であった。

・ふり返りの際に、1 時間の学びが目で見えるような工夫ができるとさらに良い。

グアナファト日本人学校　Zoom オンライン授業実践事例

指導者：上野　香織

学年	小学部　５年	教科	国語
単元名	きいて、きいて、きいてみよう		
活用する ICT	Zoom（Power Point の資料を共有して使用、ブレイクアウトルーム）		

本時の目標

〇話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができる。（思考力・判断力・表現力）

〇話し言葉と書き言葉の違いに気づくことができる。（知識・技能）

本時の展開

過程	学習活動	指導の工夫
導入	・前時までを振り返り、本時のめあて、活動のしかたや気を付ける点を確かめる。 友達に聞いてみたいことをインタビューしよう。	・前時までの学習をまとめた Power Point の資料を提示し、インタビューで大切にしたいことを確認できるようにする。
展開	・交代でインタビューをし合う。 （三人一組…聞き手、話し手、記録者） ・記録者は、報告の準備をする。 ・記録者は、インタビューの内容を報告する。	・ブレイクアウトルームに三人一組で分かれてインタビューを行うことで、話したり聞いたりする経験が充分にできるようにする。 ・教師はそれぞれのルームに数分ずつ入室し、困っていることなどを助言できるようにする。
終末	・本時の学習の振り返りをする。	・導入で確認しためあてに沿って振り返りを行うように、Power Point の資料を提示する。

成果と課題

・ブレイクアウトルームを使用することで三人だけの空間ができ、周りの声を気にせず集中してインタビューに取り組むことができた。

・Power Point で資料を提示することにより、学習のポイントを視覚的に捉えることができた。

・グループが多くなればなるほど、教師がそれぞれのルームに入室する時間が少なくなり、指導や評価が難しくなる。

通常授業（平常時）と比べてどれだけ平常時に近づいた授業が実践できたか

・Zoom、ブレイクアウトルームを使うことで、平常時のインタビュー活動とほぼ同等の授業を行うことができた。

グアナファト日本人学校　Zoom オンライン授業実践事例

指導者：大林　淳

学年	小学部　　5 年	教科	社会
単元名	自動車をつくる工業		
活用する ICT	Zoom,　画面共有用スライド（Power Point で作成）		

本時の目標

〇本時の問題「完成した自動車は、どのようにして世界中の消費者にとどけられるのでしょうか。」について考えることで、自動車の海外生産を行っている理由や、海外で生産することで、消費者、自動車会社、生産工場がある国のそれぞれにどんなメリットがあるのかについて、自分の意見を述べることができる。

本時の展開

過程	学習活動	指導の工夫
導入	・クイズ形式の前時の復習に取り組み、前時の内容や言葉の意味について思い出す。	・前時の授業内容に関するクイズを出すことで、前時の内容や言葉の意味について思い出させ、それを本時の活動に生かす。
展開	・本時の問題を確認する。 完成した自動車は、どのようにして世界中の消費者にとどけられるのでしょうか。	
	・本時の問題について、まずは答えを予想し、その後本時の問題の答えを、教科書を使って探し、確認する。 ・本時の問題に付随した問い、「なぜ自動車の海外生産を行うのか」、「海外で生産することで、消費者、自動車会社、生産工場がある国のそれぞれにどんなメリットがあるのか」について、自分の意見を考え、その後クラスで共有する。	・Power Point で事前作成したスライドを開き、Zoom で画面共有し、学習内容を視覚的に捉えやすくする。 ・本時の問題に付随した問いを出すことで、より深く考えるようにする。 ・発表しあうことで、自分と異なる意見、新しい視点に気付かせる。
終末	・本時の学習を振り返り、次時の見通しを持つ。	

成果と課題

・教科書や資料、写真を児童の端末画面に共有することで、視覚的な部分から理解させることができた。

・黒板のように、一枚で本時の内容がわかるようにできない。

通常授業（平常時）と比べてどれだけ平常時に近づいた授業が実践できたか

・写真や動画を効果的に使うことができるので、より理解が深まったように思う。

・常の授業と変わらない感じで話し合い活動はできるが、子どもたち同士での資料の共有等が難しく、その部分を教える時間が必要。

グアナファト日本人学校　Zoom オンライン授業実践事例

指導者：上野　香織

学年	小学部　５年	教科	図工
単元名	形が動く　絵が動く		
活用する ICT	Zoom（Power Point の資料を共有して使用、ブレイクアウトルーム）		

本時の目標

〇コマどりアニメーションの仕組みを理解し、自分たちの表したいことに合わせて表し方を工夫して表している。（知識・技能）

〇材料などを動かして表したいことを見つけ、形や色、材料の特徴、構成の美しさなどの感じを考えながら、主題の表し方を考えている。（思考力・判断力・表現力）

〇コマどりアニメーションの仕組みを使って楽しい動きや変化をつくる学習活動に主体的に取り組んでいる。（主体的に学習に取り組む態度）

本時の展開

過程	学習活動	指導の工夫
導入	・アニメーションの仕組みを知り、活動の見通しをもつ。 ・死者の日をテーマにグループで取り組むことを確認する。 アニメーションの仕組みと使って、楽しい動きや変化を考えよう。	・アニメーションの仕組みを使った動画や画像を共有し、活動の見通しがもてるようにする。 ・死者の日についてまとめた Power Point の資料を提示し、活動への意欲がもてるようする。
展開	・班で話し合い、動くものや動かし方、ストーリーについてアイディアを出し合う。 ・動かし方を試しながら、表したいことを考える。	・班ごとにブレイクアウトルームに分かれ、ホワイトボードに自由にアイディアを書きながら話し合うようにする。 ・教師はそれぞれのルームに数分ずつ入室し、困っていることなどを助言できるようにする。 ・必要に応じて、スクリーンショットをし共有することで、動き方や表し方を確かめることができるようにする。
終末	・本時の学習の振り返りをする。	・導入で確認しためあてに沿って振り返りを行うように、Power Point の資料を提示する。

成果と課題

・ブレイクアウトルームごとに、ホワイトボード機能を使用することで、考えたことを視覚的に共有しながら話し合うことができた。
・Power Point で資料を提示することにより、学習のポイントを視覚的に捉えることができた。
・今回は、時間の都合上、スクリーンショットや編集作業など教師が行ったが、パソコンの扱いに慣れてきて、時間に余裕がある場合は、すべて児童が行うようにするとよい。

通常授業（平常時）と比べてどれだけ平常時に近づいた授業が実践できたか

・Zoom、ブレイクアウトルーム、スクリーンショットを使うことで、できる限りの活動は行った。しかし、平常時でやった方が、アイディアの幅を広げることができる。

グアナファト日本人学校　Zoom オンライン授業実践事例

指導者：西尾　直也

学年	小学部　　5 年	教科	理科
単元名	植物の実や種子のでき方		
活用する ICT	Zoom、iPad、映像教材（NHK for School）		

本時の目標

〇ツルレイシの花のつくりやお花・め花の違いがわかる。

〇花粉のはたらきや受粉について考えることができる。

本時の展開

過程	学習活動	指導の工夫
導入	教員の家の庭で栽培しているツルレイシの実や花の様子を iPad の中継を見ながら観察する。 ２つの花のつくりの違いに着目させて、どちらがお花でどちらがめ花か予想する。	授業を実施するパソコンとは別に iPad を ZOOM 接続して、実際に庭から中継するような形で植物を見せる。 他の花を映してクイズを出題するなど、学習効果とともに臨場感を演出する。
展開	事前に撮影しておいたお花･め花の写真を見比べて、つくりの違いについてわかったことを発表する。め花のつけねの部分（子房）がツルレイシの実の形になっていることを確認する。 お花・め花の花のつくりを理解する。 ミツバチや人の手による受粉の映像を見て、花粉の役割と受粉について考察する。	教員が屋内に戻るまでに時間があるため、教科書の該当ページを確認させる。 見せる写真や映像を事前に準備しておく。
終末	アサガオの花のつくりについて復習し、ツルレイシの花との違いがわかる。	植物にもオスとメスのはたらきがあることを印象づけ、動物の単元との関連性を意識させる。

成果と課題

・Wifi 等の ICT 環境の安定化により、動画等もスムーズに共有することができた。

・視聴覚以外の効果（例えば花のにおいをかぐ、実をさわってみるなど）が乏しい。

通常授業（平常時）と比べてどれだけ平常時に近づいた授業が実践できたか

・iPad による中継を活用することで、実際の観察に近い授業実践が可能となった。

グアナファト日本人学校　Zoom オンライン授業実践事例

指導者：草野　千春

学年	小学部　5.6 年	教科	体育
単元名	器械運動（マット運動）		
活用する ICT	Zoom		

本時の目標

〇開脚前転、開脚後転のポイントを理解しよう

本時の展開

過程	学習活動	指導の工夫
導入	・ラジオ体操 ・ストレッチ	・けがを防止するため、準備運動をしっかりと行う
展開	・開脚前転のポイントをプリントやお手本をみて理解する。 ・練習をする ・数名の児童の発表。ポイントを児童から伝える。 ・もう一度練習をする。 ・開脚後転のポイントやお手本をみて理解する。 ・練習をする。 ・数名の児童の発表。ポイントを児童から伝える。 ・もう一度練習をする。	・カメラに全身がうつっていない児童は、うつるようにカメラを動かすよう指導。 ・練習時間には、一人一人に声をかける。 ・児童の口からポイントが出るように、見本や児童の発表を見せる。 ・ポイントを意識しながら行うよう助言する。
終末	・開脚前転、開脚後転のポイントを復習	・何度もポイントを確認する

成果と課題

・一つの画面で全員が行っている姿が見えるので、達成度が確認しやすい。

・実際に補助をすることができないので、できない児童に口だけでは伝わりにくい。

通常授業（平常時）と比べてどれだけ平常時に近づいた授業が実践できたか

・限られたスペースで限られた技しか学習できなかったが、意欲的にマット運動に取り組んでいる姿が見られた。

グアナファト日本人学校　Zoom オンライン授業実践事例

指導者：古瀬　由紀子

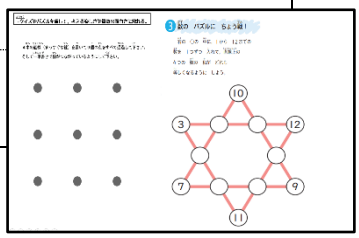
学年	小学部　　６年	教科	算数
単元名	算数卒業旅行　―クイズ・パズルコース―		
活用する ICT	Zoom		

本時の目標

○　クイズやパズルを通して、考える楽しさや算数の面白さにふれる。

本時の展開

過程	学習活動	指導の工夫
導入	・本時の目標を確認する。 クイズやパズルを通して、考える楽しさや算数の面白さに触れる。	・勘や偶然だけに頼るのではなく、考え方のコツを伝える。
展開	・ｐｐに表示される問題を声に出して読みながら、問題を把握する。 ・分かった人は手を上げ、指名されたら画面に書き込む。 ・画面に注目し、仲間の考え方から問題解決の手がかりやヒントをつかむ。	・わかりやすいところで区切ったり、色を変えたりしながら問題を画面に表示する。 ・正解が出た場合は、他の児童に解説させたり、再度させ名させたりする。 ・制限時間内に解けなかった場合は、少しずつヒントを与える。
終末	・学習を振り返る。	



成果と課題

・児童がパソコンの画面に書き込んだり、消したりすることで関心を持たせることができた。

・一人の児童が解答を書き込んでいるときの表情や、説明を聞いている時の児童の表情がよくわかるので、意図的な指名がしやすい。

通常授業（平常時）と比べてどれだけ平常時に近づいた授業が実践できたか

・共有画面に書かせることで、１つの問いに対してみんなで知恵を絞りながら解いている感覚があり、平常時と同じくらい盛り上がった。「画面に書く」「画面にかいたものを消す」「直線をひく」「分数をかく」など算数の知識・技能そのものではなく、パソコン技能が大きく影響することが指導上難しかった。

グアナファト日本人学校　Zoom オンライン授業実践事例

指導者：大林　淳

学年	小学部　　6 年	教科	社会
単元名	江戸幕府と政治の安定		
活用する ICT	Zoom,　画面共有用スライド（Power Point で作成）		

本時の目標

〇本時の問題「参勤交代でだれが一番得をしたのか」、「江戸時代の平和が続いた外交、内政どちらのおかげか」について考えることで、江戸時代の制度をさまざまな見方でとらえ、自分の意見を述べることができる。

本時の展開

過程	学習活動	指導の工夫
導入	・歴史クイズで前出の「鎖国」や「参勤交代」に関するクイズに取り組み、前時の内容や言葉の意味、制度の内容について思い出す。	・前出の制度に関するクイズを出すことで、前時の内容や言葉の意味、制度の内容について思い出させ、それを活用させる。
展開	・本時の問題を確認する。 参勤交代でだれが一番得をしたのかを考える。 江戸時代の平和が続いた外交、内政どちらのおかげか考える。	
	・教科書を使用して調べ学習を行う。 教科書で制度の名前やその内容、歴史上の人物について調べる。 ・本時の問題について、本時の学習で得た知識や今までに学習したことを活用して考え、クラスで意見を共有する。	・Power Point で事前作成したスライドを開き、Zoom で画面共有し、学習内容を視覚的に捉えやすくする。 ・教科書を使用して調べ学習を行うことで、受け身にならないようにする。 ・発表しあうことで、自分と異なる意見、新しい視点に気付かせる。
終末	・本時の学習を振り返り、次時の見通しを持つ。	

成果と課題

・教科書や資料、写真を児童の端末画面に共有することで、視覚的な部分から理解させることができた。

・黒板のように、一枚で本時の内容がわかるようにできない。

通常授業（平常時）と比べてどれだけ平常時に近づいた授業が実践できたか

・写真や動画を効果的に使うことができるので、より理解が深まったように思う。
通常の授業と変わらない感じにはできるが、その場でノートにどのようなことを書いているのかなどの確認ができない。

グアナファト日本人学校　Zoom オンライン授業実践事例

指導者：龍口　茂

学年	小学部　6　年	教科	図画工作
単元名	アミアミアミーゴ		
活用する ICT	Zoom・ipad		

本時の目標

〇編んだり織ったりして，生活を楽しくするものを作ることができる。

本時の展開

過程	学習活動	指導の工夫
導入	・材料と出会い，アイディアをだしあう 編むことで，生活を楽しくするものを作ろう	・ipad を使用し多くの作品を見せ，興味を持たせる。 ・伝統的な技法について ipad で工芸品を提示する。
展開	・本時の目当てを捉える。 ・様々な表現方法を思いつかせる。 ・「編む」などの技を見つける。 ・自分の作りたいものを考える ・自分のイメージに合うものを作る。	・ipad で参考動画を見せたり，教師手本を提示したりすることで確認する。 ・活動中に振り返りができるようにする。 ・zoom で学習内容を共有する。 ・児童一人ひとりの考えをコメントカードにして zoom で視覚化させる。
終末	・互いの作品を鑑賞し，お互いの良さを話し合う。	・zoom にて話し合い活動をさせる。

成果と課題

・教科書や指導者の手本を ipad や zoom に共有させることで，児童一人ひとりのめあてを確認することができた。また，児童の製作過程を同時に確認することが可能となる。

・児童同士もお互いの作成過程を確認しやすくなった。

通常授業（平常時）と比べてどれだけ平常時に近づいた授業が実践できたか

・共有画面にて，児童一人ひとりの機器で確認することで，平常時に近い指導ができるが，技能教科という特性上，作成方法・表現方法等できめ細かい指導には限度がある。

グアナファト日本人学校　Zoom オンライン授業実践事例

指導者：比留川　孝子

学年	中学部　1 年	教科	英語
単元名	1 日の生活（presentation 2 ）		
活用する ICT	Zoom　powerpoint		

本時の目標

〇過去形を正しく、書き、読むことができる

本時の展開

過程	学習活動	指導の工夫
導入	Greeting Spelling test	チャットで spelling test を行う
展開	①new word , new expression の読み方、意味を確認する。 ②A「規則正しい生活」と B「不規則な生活」の例を挙げる（英語で）。 ③A と B のそれぞれの 1 日の流れを書く。 ④書いた「日記」を発表する。	・自信のなさそうな読み方がなくなるまで発音する。 ・①であげた expression を積極的に使わせる。 ・1 日の日記をノートに記入させ、正しく 4 本線上に記入できているかを確認する。
終末	過去形が正しく使われているか確認	

成果と課題

・チャットを使ってスペリングテストを実施できた

・キーボードで「大文字」にしたり、「アポストロフィ」を入れたりすることを知らない生徒がいた。キーボードで英語を入力するスキルも重要だが、英語を「書くこと」を優先にしたい。

・生徒がノートに記入したものを画面上で確認することが難しい。

通常授業（平常時）と比べてどれだけ平常時に近づいた授業が実践できたか

4 本ラインで英語がしっかりかけているか（大文字、小文字、4 本ライン上での正しい位置にアルファベットが書かれているか）を画面上で確認することが難しい。中学 1 年では大切なスキルであるため、これの攻略が課題だ。

グアナファト日本人学校　Zoom オンライン授業実践事例

指導者：古瀬　由紀子

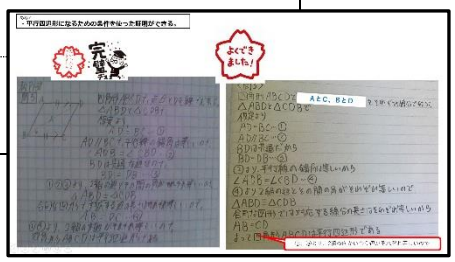
学年	中学部　　2 年	教科	数学
単元名	図形の性質と証明		
活用する ICT	Zoom，チャットワーク，　iPad，画面共有用スライド（Power Point で作成）		

本時の目標

○　いろいろな方法で書いた四角形が平行四辺形になることを証明することができる。

本時の展開

過程	学習活動	指導の工夫
導入	・平行四辺形になるための条件について確認する。	・画面共有スライドを使い、既習事項を表示する。 ・穴埋めにして数学用語を確認する。
展開	・本時の目標を確認する。 ○　いろいろな方法で書いた四角形が平行四辺形になることを証明することができる。 ・条件に合った図形をノートに書き、出来上がった四角形がどんな四角形になるかを考える。 ・書いた図形をチャットワークで送る。 ・仮定・結論を確認し、証明をする。 ・証明をチャットワークで送る。 ・筋道を立てた証明になっているかを確認するとともに、他の考え方（証明）をクラスの仲間から学ぶ	・iPad を使い、条件合った図形をかく一例を見せる。 ・チャットワークに届いた図形を pp に貼り付け、どんな場合でも平行四辺形になることが予想されることを確認する。 ・届いた証明を pp に貼り付け、画面で添削する。
終末	・シンプルかつ美しい証明にしていくために、仲間の考えから学んだことや、自分の証明について感じたことを発表する。	



成果と課題

・pp により導入（既習事項の復習）をスムーズに行うことができた。
・Apple Pencil で証明の添削を行うことにより、シンプルかつ美しく表現する方法を交流することができた。
・zoom を接続したままチャットワークを使うことで、仲間の解き方に触れたり互いにアドバイスを送り合ったりすることができた。
・iPad を使って、図形をかく手順をその場で示すことができた。

通常授業（平常時）と比べてどれだけ平常時に近づいた授業が実践できたか

ノートの画像を送らせて画面共有することで、通常授業よりも効率よく意見交流をしたり、添削することができた。

グアナファト日本人学校　Zoom オンライン授業実践事例

指導者：西尾　直也

学年	中学部　　２年	教科	社会
単元名	日本の諸地域　近畿地方		
活用する ICT	Zoom、生徒用パソコン		

本時の目標

○①自然環境、②人口や都市・村落、③産業、④交通や通信、⑤その他の事象を中核として、近畿地方の地域的特色や地域の課題を理解し、それらを相互に有機的に関連付けて多面的・多角的に考察し，表現すること。

本時の展開

過程	学習活動	指導の工夫
導入	近畿地方の地名や県名を確認する。	地図と関連付けた知識の定着を確認する。
展開	①環境問題・環境保全、②人口、都市・村落、③歴史的背景、④産業、⑤他地域との結びつき、⑥生活・文化、⑦自然環境について、自分の担当を決め、近畿地方の特色や課題について調べてまとめ、プレゼンテーションを行う。 （Power Point、Keynote、Word など、プレゼンテーションで使用するソフトは任意で選択可する。プレゼンテーション資料は pdf 化し、Chatwork というネット上の掲示板にて生徒間で共有するとともに、評価の材料とする。）	４０分×２コマの授業で調べ学習をし、次の授業で発表する。
終末	各県について、試験に出そうなキーワードベスト３を各人で発表し合い、まとめとする。 「すらら」の演習問題（pdf 化したもの）をテスト前の復習として活用した。	用語の羅列にならないよう、ポイントとなる語を明確にする。

成果と課題

・調べ学習から発表まで行うことで、理解が深まるだけでなく、思考・判断・表現の各能力に向上が見られた。

・調べ学習により情報量が飛躍的に増大した結果、ポイントがしぼりにくくなった。

通常授業（平常時）と比べてどれだけ平常時に近づいた授業が実践できたか

・ICT の活用によって相互のプレゼンテーションやファイルの共有が円滑に進んだ。

・「すらら」による予習・復習を活用することで、授業時間の減少を補うことができた。

グアナファト日本人学校　Zoom オンライン授業実践事例

指導者：大橋　望

学年	中学部 1，2 年	教科	音楽
題材名	思いを音に表そう（創作）		
活用する ICT	Zoom、GoogleMusiclabo、Powerpoint		

本時の目標

〇思いや意図が伝わるように、作った旋律を試行錯誤しながら工夫しよう

本時の展開

過程	学習活動	指導の工夫
導入	前回までに作成した旋律を聞き、もっと工夫できることがないか考える。	
展開	GoogleMusiclabo をブラウザから起動し、各自で試行錯誤しながら旋律を作る。	途中で質問がある場合は zoom のチャット機能やブレイクアウトルームを使用し、互いにアドバイスし合うように助言する
終末	次回は発表会に向けた準備をすることを知る。	

成果と課題

・楽器を使って創作するよりも簡単に実施できた。

・楽譜に起こす必要がないため、音楽に対して苦手意識を持つ生徒でも積極的に参加できた。

・楽譜の仕組みを理解したり、実際に演奏したりすることはできない。・

通常授業（平常時）と比べてどれだけ平常時に近づいた授業が実践できたか

・平常時には使用しにくいツールを使って実施でき、題材のねらいは平常時と同じレベルで達成できた。

グアナファト日本人学校　Zoom オンライン授業実践事例

指導者：比留川　孝子

学年	中学部　1,2　年	教科	総合の時間
単元名	メキシコの現地校と SDGS を考える		
活用する ICT	Zoom　PowerPoint		

本時の目標

〇グアナファト日本人学校での総合的な学習の時間の一環としての国際理解の意義を把握し、積極的に授業に臨むことができる。

本時の展開

過程	学習活動	指導の工夫
導入 1　アイスブレイク（5 分） 2　SDG s の基礎知識を確認（10 分） 3　具体的な問題の事例　（5 分） 4　休憩後の流れの説明（5 分）	・簡単なゲームをして緊張をほぐす。 ・SDG s １７の目標を確認する。 ・スライドを使って、クイズ形式で行う。	・ネット上のクイズを共有し、生徒が興味あるものを使用
展開 5　休憩　（10 分） 6　小グループに分かれて話し合い活動　（15 分） 7　各グループ代表が発表（10 分） 8　全体でゴールを１つに決める（10 分）	休憩後には小グループに分かれている。 ・議長、書記を決めグループディスカッション ・各グループの書記が結果発表	・ZOOM のブレイクアウトルームで、スムーズにグループ分けできるように、名前に記号を付けさせる
終末 9　今後の予定について 5 分） １０まとめ　（5 分）	次回、自分たちが改善できることで、例えばどんな問題が考えられるかを発表する（環境問題についての調べ学習を発表）	

成果と課題

・各生徒とネット上で参加できるデジタルクイズは生徒の関心を引いた。

・ZOOM のブレイクアウトルームを使用することで、簡単に小グループディスカッションができた。

・ブレイクアウトルーム時に、各グループを録画したり、ディスカッションをサポートしたりする必要があった。

通常授業（平常時）と比べてどれだけ平常時に近づいた授業が実践できたか

現地校との交流において、その学校を訪ねたり、保護者や多数の教員が参加したりする点は、オンラインでの実施の方がはるかに負担は少ない。

グアナファト日本人学校　Zoom オンライン授業実践事例

指導者：草野　千春

本時の目標

学年	小学部・中学部	教科	体育（行事）
単元名	ZOOM 運動会		
活用する ICT	Zoom、iPad、パワーポイント		

○ZOOM 上ではあるが、全校生のイベントとして児童生徒保護者教職員が一致団結する。

○スローガンのもと異学年で zoom 運動会の活動を通して、みんなで行った達成感を味わう

本時の展開

過程	学習活動	指導の工夫
導入	・開会式 ・ラジオ体操 ・チーム結束会 ・からだじゃんけん ・借り物競争 ・ブリッジ選手権	・開会式をきちんと行うことで、運動会という認識をもたせる。 ・各組のキャプテンを中学生とし、リーダー性を育てる。
展開	・ジェスチャーゲーム ・風船ふくらまし選手権 ・風船ポンポン選手権 ・数合わせゲーム ・体でカタカナを表現ゲーム ・各学年が事前に授業で撮影した表現運動を視聴 ・全校グアナファト音頭	・ブレイクアウトルームに各組（赤・黄・白・青）で分かれることにより、少ない人数で交流しながら競技ができる。
終末	・閉会式 ・各組ごとに集合して解散式	・解散式を行うことで、各組の一員だったこと理解させる。

成果と課題

・画面上であったが、全校生が楽しく活動する姿を見ることができた。

・２学期から体育で学習してきたマット運動を表現運動の中に取り入れ、学習の成果を他学年にも披露することができた。

通常授業（平常時）と比べてどれだけ平常時に近づいた授業が実践できたか

・開会式→競技→閉会式の流れは、運動場で行う運動会と相違なく行えた。

・リレーや玉入れなどの種目はできなかったが、各学年の表現運動は通常時と同様にできた。